無上甚深微妙

同音 百千万劫にも遭い遇うこと難いるできんまきにう 願くは、如来の真実義を解したてまつらん。繋やのいまでは、いれの真実義を解したてまつらん。我今見聞し受持することを得たり、

菩は 羯ゃ 多た 咒ゅ 多た 得を 想象 罣け 所な亦な 無む 耳に 不ふ 是世 異い 蘊え 観な 提に 諦な 咒ゅ 能の 是世 阿ぁ 究く 礙け 得を無む 意い 鼻び 増え 舎を 色を 皆な 自じ 薩を 羯を即を除る大な 耨の 竟如 無い故る 老の 識し 舌で 不い利り 色と空の 在で 婆ャ 諦い説さーい神に多た涅は 墨け 菩は死し界が身に減げ子し即で度と菩は で 関い 切れ 関い 羅ら 繋は 礙け 提が 尽が 無む 意に 是世 是世 是世 是世 一い。薩う 波は 日か 苦く 是世 三を 三を 故こ 薩ら 無む 無む 故こ 諸と 空ら 切れ 行う 羅ら 真と 大が 藐々 世世 無む 埵た 苦く 明な 色と 空ら 法等 空ら 苦く 深ん 羯き 実ら 明な 三を 諸と 有う 依え 集か 亦な 声ら 中か 空ら 即で 厄ぐ 般な 不当咒は菩は仏が恐く般は滅め無い香を無い相を是世舎と若に 虚こ是世提が依え怖が若に道が無い味み色と不ら色と利り波は 故こ無む故こ般は遠れ波は無む明な無む生き受い子に羅ら 説さ上。知ち若に離り羅ら智ち尽じ法。受じ不ふ想を色と蜜か 般は咒い般は波は一い蜜素亦作乃然無い想意滅の行意不必多た 若に是せ若に羅の切な多た無む至し眼が行う不、識と異い時に 波は無む波は蜜の類に故こ得と無い界が識を垢く亦や空く照ら 羅ら等な羅ら多た倒な心は以い老な乃な無い不必復必空を見け 蜜☆ 等音 蜜☆ 故こ 夢む 無む 無む 死し 至し 眼が 浄点 如に 不ふ 五ご

般は 羅ら 若に 羯ぎ 心に諦い 経ぎ 波ー羅 僧を 羯ぎゃ 諦い

宗。高さ 祖さ 祖さ 根に 天なん 本でなった。 教が 者に 大だ 大だい

師し 師し (三返)

南な南な

無む 無む

(三返)

丁

丁

『普く一切に及ぼし、我のない およ いっさい およ からを およ かり は此の功徳を以て」が、 我れ等と衆生と、

皆共に仏道を成ぜんことを 三丁 みなとも ぶっとう じょう

回え

向う

文もん

同音

丁